

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等		目標の内容・実績				
【法人名】 公益社団法人 埼玉県農林公社	目標	農地中間管理事業の転貸面積	就農予備校等の受講者数	分収林の整備面積	農林公園の利用者数	収益事業収入
	【令和2年度目標】 2,200ha	【令和2年度目標】 70人	【令和2年度目標】 280ha	【令和2年度目標】 122.5千人	【令和2年度目標】 30,700千円	
	【令和3年度目標】 2,200ha	【令和3年度目標】 70人	【令和3年度目標】 280ha	【令和3年度目標】 123.8千人	【令和3年度目標】 31,100千円	
		【令和4年度目標】 2,200ha	【令和4年度目標】 70人	【令和4年度目標】 280ha	【令和4年度目標】 125.2千人	【令和4年度目標】 31,500千円
【中期経営計画の期間】 令和2年度～令和4年度	各年度の実績	【令和2年度実績】 1,345ha	【令和2年度実績】 71人	【令和2年度実績】 226ha	【令和2年度実績】 118.0千人	【令和2年度実績】 33,796千円
		【令和3年度実績】 1,578ha	【令和3年度実績】 81人	【令和3年度実績】 156ha	【令和3年度実績】 119.2千人	【令和3年度実績】 33,757千円
	法人による自己評価	新型コロナウイルス感染防止の観点から、中間管理事業の地域説明会が中止や延期となり、本年度の目標転貸面積を下回る実績となった。 今後、人・農地プランの実質化された地域で、説明会を関係機関と連携し実施することで、地域を単位とした面的集約を図っていきたい。	休日就農相談会、就農支援セミナー、農業大学の就農ガイダンスなどの機会を通じて、就農に向けた公社プログラムの説明・周知を図ることで、受講生を確保することができた。	将来のリスクに備えるため、平成30年度から植栽をとりやめたことにより、下刈は徐々に減少していくが、生育状況に応じて枝打や保育間伐など適切な施業を行う必要がある。 令和3年度は育成状況により、下刈や間伐の実施を見送った事業地があったほか、森林整備に関する補助金の枠組みが変わり、事業量の見直しを行ったため目標を下回ることとなったが、おおむね適切な施業を行うことができた。	利用者数＝農産物直売所利用者＋研修室等利用者数＋学習体験等利用者数 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年5月12日～6月20日の間は、研修室等の供用、体験学習・研修を中止したが、第5波から第6波までの間(10～12月)は通常どおり開園し、冬まつりも開催できたので、目標は達成することができた。	農産物直売所はコロナ禍にあっても、食品を扱う店舗として開店することができ、新鮮な野菜を買い求める利用者の需要を取り込むことができた。 さらに、埼玉ブランド農産物のほか、有機JAS認証取得農産物や6次産業化商品等を取り扱い、利用者の多様なニーズに対応してきたため、目標を達成することができた。